



学校だより ながや

「みんなでつくった二日間」

副校長 山方 健一

9月17日、18日の二日間、4年生が野島宿泊体験学習に行きました。4年生にとって初めての宿泊行事です。公共交通機関を利用した移動、野島でのフォトラリー、カニ釣り、キャンドルファイヤー、シーグラス作り、学年レクなど、子どもたちはさまざまな体験をしました。

中でも私が印象に残ったのは、何事にも夢中になって楽しむ子どもたちの姿です。カニ釣りでは、目の前のカニに一喜一憂しながら、時が経つのも忘れて熱中していました。また、キャンドルファイヤーや学年レクでは、友達と一緒に声を出し、歌い、踊り、笑い、みんなでその場を盛り上げながら、仲間と過ごす楽しさを存分に味わっていました。

そして、今回の体験学習を通して改めて実感したのは、「みんなで力を合わせる」とのすばらしさです。学級ごとのダンスでは、当日を迎えるまでに、思うようにいかないこともあったことでしょう。それでも、話し合ったり、励まし合ったりしながら練習し、本番では、それぞれの学級らしいまとまりのあるパフォーマンスを披露しました。子どもたち同士が声をかけ合い、教え合う姿もたくさん見られました。

もちろん、一人で努力することも大切です。自分で考え、自分の力でやり遂げる経験は、子どもたちの自信につながります。一方で、学校という集団で学ぶからこそ得られるものもあります。仲間がいるからこそがんばれること、互いの力をもち寄ること、一人ではできなかったことができるようになること。そして、みんなで一つのことを成し遂げたときに生まれる喜びがあります。今回の二日間は、子どもたちにとって、そうした「人と関わりながら

子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ

QRコード



学ぶこと」の価値を実感する機会になったのではないのでしょうか。

また、実行委員の子どもたちの活躍も光っていました。準備や練習を重ねて、それを周りの友達が支える姿からは、学年全体の温かなつながりを感じました。自分の役割を果たすことと、仲間を支えることの両方があって、一つの活動が成り立っていきます。こうした経験は、子どもたちがこれから高学年へと進み、学校を支えていく存在になる上でも大切な力となります。

宿泊体験学習は、楽しい思い出をつくるだけの行事ではありません。普段とは異なる環境で仲間と生活を共にする中で、自分で考えて行動すること、相手を思いやること、そして、仲間と協力して一つのものをつくり上げることを学ぶ機会でもあります。

学校生活には、一人でじっくり考え、努力する時間があります。同時に、友達と話し合ったり、教え合ったり、力を合わせたりすることで、一人では気付かなかったことを発見したり、新しい力を身に付けたりする時間もあります。「一人でできること」と「みんなでできること」の両方を大切にすることが、子どもたちの学びをより豊かなものにしていけると考えます。

10月17日には、スポーツフェスティバルがあります。永谷小学校の子どもたち一人ひとりが自分の力を精いっぱい発揮するとともに、友達と声をかけ合い、支え合いながら、みんなで一つのものをつくり上げる場面がたくさん見られることを期待しています。

最後になりましたが、当日までの準備や励ましなど、今回の宿泊体験学習を支えてくださったご家庭の皆様にも、心より感謝申し上げます。